

平成31年2月21日

島本町立第二小学校
校長 辻本 堅二 様

島本町立第二小学校学校協議会
会 長 坂 東 俊 枝

平成31年度の学校教育活動への提言

平成30年度の5回の学校協議会を踏まえ、下記のとおり取りまとめましたのでお取り計らいを願います。

記

私たちは、第二小学校学校協議会委員として子どもたちの「学びと育ち」に関わり、学校の教育活動について提言できることに大きな意義を感じています。

子どもたちの健やかな成長のためには、学習環境が大変重要であり、施設面はもちろん、周りの大人たちの働きかけが不可欠です。そのためにも、学校の施設面及び人的な環境整備を行いつつ、教職員と保護者、そして学校に関わる地域の方の協働が必要です。

子どもたちに「知」「徳」「体」とバランスの取れた力、すなわち『生きる力』を育むことは学校教育の目標でもあります。子どもたちが意欲を持って学び、豊かな心を育み、心身ともに健やかな体に育つよう全教職員が力を合わせ、意図的・計画的かつ組織的に教育課程を実施し、質の高い教育活動を創造されることが望まれます。そして、学校を拠点としながら、保護者、地域の信頼と協働の上に立ち、実践されることで、子どもたちに『確かな学力・豊かな心・健やかな体』を育むことができると考えます。

①授業づくり、確かな学力の向上

授業参観では、どのクラスも落ち着いて前向きに授業に取り組んでいる様子が伺えました。とりわけ、習熟度別指導が行われている算数授業は、参観で拝見していても成果が顕著であると思えます。今後も引き続き継続し、成果が望まれる授業があるならば、算数以外でも取りいれてみてはと願います。そうすることで、必然的に少人数指導ができるようであれば、成果は大きいと考えます。

また、授業の中に、タブレットの導入、プロジェクターの導入など、ICT教育に力を入れておられる点は、これからの社会で活躍する子どもを育てる上で不可欠な要素だと思えますので、画期的であると評価できます。しかし、一方で、機械に任せられない

大切なものをどう指導するか、どう理解させるかという問題は、常に念頭に置いての利用をお願いしたいと思います。また、教育環境の中にも、将来的には、A Iが導入される時代が必ず来ると想定できますが、教育の根源である「人を結び、人を救うのは、ほかならぬ人である」という意識だけは、忘れないで指導をお願いしたいと願います。加えて、携帯、パソコンの使い方について危険防止等の情報モラルの面からの指導も引き続きお願いします。

読書についての数字は、若干下がったと懸念されてもおりましたが、大人社会でも、コミック、アニメが、これほど高い評価を受け、世界中でその地位を確立し、テレビドラマもコミック原作であることが多い社会現象の影響は大きいと思えますし、歴史や文学をアニメで学ぶ学生がいるのも事実です。それらの影響は否定できないと考えられますが、いい環境の図書館もあり、司書も在籍し、朝の読書タイムもあるので、地道に読書指導を続けていただくよりほかないと考えます。また、保護者や地域の方と連携した二小の読書活動も引き続きお願いします。

キャリア教育については保護者にもわかりやすい伝え方を工夫いただけたらと考えます。

②生活指導、学校安全、心の教育の充実

本年度は器物破損もなく、校舎内外の美化が保たれていて学校全体の落ち着きを感じます。生活指導や児童会活動が組織的に効果的に運営されていることが伺えます。

安全については、災害が多い年度であったため、災害に対して考える、いい機会となったとも言えます。高圧電力の鉄塔の件など、様々な疑問への具体的な問い合わせを実行されたように、不安要因を未然に解決していく姿勢こそ、災害を防ぐために必要なことであろうと思えます。また、災害は、全く同じものはありませんから、臨機応変な対応と、危機管理の感覚をふだんから養い、教職員全員の共通認識にしておくことを望みます。また、西館全教室の施錠設備の整備をはじめ、防犯意識は、決して低くないと判断できると思いましたが、想定外の事が起こる時代ですので、教職員全員で防犯に関する知識と意識を高め、鋭い感覚を忘れないでいただくことが必要だと思えます。児童の訓練も、訓練ではないという意識で実施していただきたいと思えます。

学校教育自己診断からは、「学校生活」「授業」に対する否定的回答が2割ほどあり、昨年度より若干増加しているので、原因分析と改善の努力をお願いしたい。しかし、学校だよりから、『遊んだり話をしたりする友達がいる子は、93%で胸を張れる数字ですが、反対からみれば、クラスに2名程度は、そうではない子がいる』という点にも、しっかり着目され、各先生が対応されている点では安心できました。学校だより12月号の『みんながみんな違う、一人ひとりが大切な存在』という人権週間に焦点をあてた

タイトルを見るにつけ、この徹底こそが、子どもたちの自尊意識を高めるものだと思いますので、掲げた目標を、実際の指導で実行していただくことこそ、子どもたちの自尊意識を高めることに繋がると確信しております。その中で、遙学園の児童の配慮が特別扱いにならないように気をつけていただきたい。

③学校組織の向上と教育環境の整備

来年度6年生は、3クラスにしていく等、教員の加配に関するマネジメントは、評価に値すると思います。しかしながら、参観での教室の様子を拝見し、後ろに全く余裕のない教室を目の当たりにする限り、さらなる努力が必要だと考えざるを得ません。国、府に対して教職員の抜本的な増員（少人数学級の推進、複数担任制の導入、専任の専門職など）を求めるべきであり、学校協議会としても、35人クラスの実現など町独自の教員加配等を継続して要望していき、できるだけ少人数クラスの実現をめざしてほしいと願います。また、その掛け橋として、よりよい形で地域力を活用することも継続していただきたいと思います。

教職員のコミュニケーションは、災害時のみならず、ふだんから大事にしてほしいところです。大枠を決めて、その中では、各学年の裁量で授業を行うなど工夫がみられると判断いたしますが、教職員が一つの方向を向いて子どもの指導にあたることのできるような、意見交換がしやすい教職員のコミュニケーションを今後もはかっていただきたいと思います。

学校施設に関しては、プールがようやく改修されたことは喜ばしいことです。また、廊下の床の張り替えや防球ネットの張り替え、体育館の幕の交換など、修理・修繕にも力を入れることは防犯にもつながる努力だと評価いたします。しかしながら、まだまだ、暗い、汚いなどの指摘がある場所があります。子どもの安全・安心に繋がるものですから、早急な改善をお願いしたい。学校施設の営繕は、町教育委員会にも、できるだけ素早い対応をお願いしていただきたい。

④地域、保護者との連携

教育週間は、二小保護者のみならず、未就学児親子が見学に来られたり、いい雰囲気の中で参観が行われていたと感じました。保護者の方が教育熱心であることも、しっかり伝わってきました。だからこそ、今以上に、保護者の協力を得られる学校であることを望みます。そのためには、保護者とも、学校だより、学年だより等を通じて、意志疎通が図りやすい教育環境を、さらにつくり上げていただきたいと思います。

⑤その他

学校教育自己診断については、細やかな分析をされ、先生方が各自の指導を見直すいい機会になっているのであらうと思いますが、数字に踊らされることはないように、数字の陰に隠れた事実を見落とすことのないようお願いしたい。

通知表をパソコンでインプットできるようにするなど、先生方の負担を軽くする工夫は、どんどん進めていただきたいと思います。先生方に義務付けられた文書作成が多くなってきている傾向を感じます。これは、文科省の方向でもあり、一概に廃止を要求できるものではないでしょうから、先生方の負担を軽減できるための工夫は、どんどん取り入れていただきたいとお願いいたします。

若い先生を育成する校内研修をはじめ教職員の研修体制の増加やO J Tの充実を願います。また、教師間でも「ほめ言葉のシャワー」があればもっと職場も活気づくのではと思います。

本提言に対しての学校としての具体的な方策、教育委員会からの回答などについて、年度初めに説明をいただければありがたいです。